

平成20年度 第3回経営工学教育FD/IT活用研究委員会

- I. 日時 : 平成20年10月24日(金) 午後2時から午後4時まで
II. 場所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席者 : 渡辺委員長, 玉木委員, 細野委員
井端事務局長, 森下主幹, 恩田事務員

IV. 検討事項

1. 経営工学教育の学士力(案)の最終検討

第2回委員会で作成した経営工学教育の学士力(案)について、私情協サイバーFD研究員に登録されている、経営工学分野の私立大学教員110名に対し意見照査を実施。

回答者14名(12.7%)の意見、企業に勤務している社会人の意見、各方面から寄せられた意見について、逐次詳細に検討し、最終をまとめた。

2. 検討内容

回答者の79%(11名)がこの案に賛同すると回答しているが、寄せられたコメント、意見をもとに検討修正を行った。

①. 経営資源を有効活用するために、企業や組織体の活動を科学的に調査し、分析できる。

寄せられたコメント、意見をもとに、以下の修正を行った。

- ・ PQMSEの考え方に加えて、生産性を入れる。
- ・ 安全をリスクに変える。
- ・ 人材育成、作業環境、モチベーションも重要であり、終業意欲(モラル)を入れる。

<修正した説明文>

- ・ 品質、コスト、納期、生産性、環境、リスク、就業意欲(モラル)を考慮して、人、モノ、サービス、機械設備、方法、情報およびシステムの観点から調査・分析できる。

②. 企業や組織体の活動に関して課題の発見、課題の構造化、課題の解決に必要な基礎能力を身に付けることができる。

- ・ 説明部分の、項目の列挙に手法と対象が混在している、等の意見があり、検討、整理して修正を行った。

<修正した説明文>

- ・ モデリング、データ解析、シミュレーション、オペレーションズ・マネジメント(工程管理、資材管理、品質管理、作業管理、設備管理、原価管理、物流管理、販売管理、環境管理)の基礎的能力を修得する。

③. 企業や組織体の活動に必要なシステムの計画、設計、運用、管理、改善の基礎知識・技能を身に付けることができる。

- ・ プレゼンテーション、コミュニケーション等に触れるべき、との意見があったが、これは共通の能力に含むべきとの考え方で委員の意見が一致し原案どおりとした。

4. 技術と経営の融合を図るための態度を身に付けることができる。

- ・ 本文に対して、経営工学は企業組織のみでなく公共的組織や社会活動も含んで論議されるべきであり、技術者倫理、経営者倫理、社会的責任を果たす態度としての倫理観が必要である、等の意見があり、検討して本文を修正した。

<修正した本文>

4. 技術と経営およびこれらを取り巻く社会との関わりを理解し、社会的責任に配慮することができる。

3. 検討結果

以上の検討の結果、以下の案をまとめた。

経営工学教育の学士力（案）

1. 経営資源を有効活用するために、企業や組織体の活動を科学的に調査し、分析できる。
 - ・ 品質、コスト、納期、生産性、環境、リスク、就業意欲（モラル）を考慮して、人、モノ、サービス、機械設備、方法、情報およびシステムの観点から調査・分析できる。
2. 企業や組織体の活動に関して課題の発見、課題の構造化、課題の解決に必要な基礎能力を身に付けることができる。
 - ・ モデリング、データ解析、シミュレーション、統計的手法、数理的手法およびオペレーションズ・マネジメント（工程管理、資材管理、作業管理、設備管理、品質管理、原価管理、物流管理、販売管理、情報管理、環境管理、リスク管理など）の基礎的能力を修得する。
3. 企業や組織体の活動に必要なシステムの計画、設計、運用、管理、改善の基礎知識・技能を身に付けることができる。
 - ・ マーケティング、ビジネスモデル、システムの設計、プロジェクト管理、情報システム管理についての素養を身に付ける。
4. 技術と経営およびこれらを取り巻く社会との関わりを理解し、社会的責任に配慮することができる。
 - ・ 技術者倫理と経営者倫理に基づき、技術の進歩と経営上の問題を把握して目的の達成に向けて判断し、全体を調整する意識をもつことができる。

4. 次回委員会

平成 21 年 1 月～3 月で日程設定する。